発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　平島　敏治

書記局だより
四日　けい肺委員会
五日　スト規制法存続反対、国会々期延長反対職場大会
六日　一時間五十分時限スト
七日　中央委員会
〃　大地評七日会
八日　第一回大地評委員会

スト規制法罷り通る
数の前に道理破らる
共闘に参加した同志は語る

第二十五回臨時国会で社会党を中心に革新政党および、炭労、全炭鉱、電労連、電産関係の四単産総評、新産別、全労の三連合体との間にスト規制法反対連絡会議を設置し、院内外でともに強力な闘いを組んできたがついに、自民党の数の暴力により一切の世論も無視され「スト規制法」は永久渋滞として八日遂に制定された。この法案阻止のため院内で闘つた阿具根参議の秘書浦川勇氏、国会前の座込みに参加した、本部の松本、鶴田部員ならびに傍聴で上京した酒井政治局員に、院内外の闘いの模様を聞いてみた。（司会　平島編集部長）

少数党の悲劇だ

司会　松本さん（本部教宣部員）は、第二回の座込み要員として十一月十七日から行動に入られたが、その当時の情況としてどう感じられていましたか。

松本　その当時としては委員会省略をとり消させて、期限付の審議日程を獲ちとつた状態でこれはなんとふうまくゆくと思つたしかし阿具根参議などはこれで安心してはいけない。自民党は絶対多数をもつているから一べんにヒックリ返えされる恐れがあるといつていたが、最終的には阿具根参議の情勢分析が正しかつたようだ。

司会　鶴田さん（本部労働部員）は松本さんと交替で座込みに行かれたのですが、その当時の情勢は。

鶴田　私は二十八日から座込み要員になつたのですが、当時は参議院に議案がうつりその方の傍聴に繰込まれた。丁度私が入場したとき、山本参議（九炭労出身）が質問に立つていたが、答弁に立つ倉石労相の態度がオウチャクなのに腹が立つた。なお第一陣の社会労働委員会の出席メンバーは、山本、大矢の炭労出身、電産出身が立ち、委員長が社会党の千葉信氏（全逓出身）で一応委員会は社会党のペースに乗つているようであつたが敵も曲者ばかりを揃え少数党の悲劇がよくわかつた。なお山本参議も阿具根参議などと相談し二年生議員のカンロク宜敷くやつていると思つた。

（上）国会議事堂前の官公労の座り込み
（下）炭労、電産の座り込み隊

自民黨は資本家の犬

司会　浦川さん（阿具根参議の秘書・浦川県議の実弟）は社会党の秘書団として、議員さん達の影のように努力しているれるのですがいろんな苦労があつたと思いますが、秘書団から見た院内外の共闘という点で何か話して下さい。

浦川　スト規制法の院内外の闘いを一口に言うならば「理論で勝つて数で負けた」といえるでしょう。三日の社会労働、商工委員会の連合審査に倉石労相、小林厚相が政府側から出席し、阿具根、藤田進参議を中心とする炭労、電産出身議員団を先頭として論議が沸騰したが、その中で政府、自民党が主張する「公共の福祉の為に止むを得ない」というのに対して「休山、滝山を資本家の意思で決定し、失業者を大量に出していることについての社会不安を何等規制しないのはどうしたことか」と上添田炭鉱の問題で具体的に山本参議が追及したところ、倉石労相をはじめ、政府側はシドロモドロで返答に窮し、資本家の出先機関の正体をバクロした恰好でした。

司会　新聞で鳩山首相が失言したようなことが書いてあつたが。

浦川　大矢議員（炭労出身）が二十名や三十名の小さな山で、保安放棄した場合も社会不安になるかという質問に、鳩山首相が具体的に問題が起きてから認定するような答弁をし、倉石労相が慌てゝ取消すようなことをし全くその理論は一貫していない感じをうけた。

頼もしい炭労議員

司会　酒井さん（政治局・熊本県議）は大詰の傍聴をされたようですが、政治局員が見た国会闘争をどうぞ。

酒井　私は県の仕事もあるので一足早く私用の恰好で上京し、阿具根参議と逢い参院の傍聴を四日間致しました。が政府与党に先ず私が一番に感じ、云いたいことは、二年前に国会を訪ねたとき参議院で阿具根さん一人が炭労出身として孤軍奮闘していたが、こんど来て山本、阿部、大矢、大河原と炭労出身の議員が徹底的に追求していたが全く昔日の感がある。よくぞ大塩に労働者の代表を国会に送つたと思つた。

司会　私も二年前国会を訪ねたがその当時は社会党の議席も少く労働者出身も少なかつたが、こんど上京して参議院の社会党控室を行つたら、炭労本部でもいるような気がするほど知つた人ばかりで本当に心強い気がしました。ところで酒井さん最終的な議会の空気はどうでした。

酒井　スト規制法のヤマは国会の延長にかかつて来た、五日の午前中に衆参両院の議長に国会延長絶対反対の申入れを行い。日ソ交渉問題を論議して、これで引延ばし六日の会期切れを策したが、六日に至り益谷衆院議長は開会も閉会も宣せず、勿論速記もされないという国会歴史はじまつて以来の抜討本会議を開きアツトいう間に自民党議員のみで国会を延長したのは全く民主的でない暴力的であつた。

権力は政府の番犬

司会　わたくしたちは、院内外の闘いを現実に見、また体験もして来たのですが、本直にこの状態を組合員、家族のみなさまにうつたえ、政府は明らかに労働者を敵にしている。これが日本人同志が血で血を洗う惨事を起す政府の政策であることをうつたえたいと思う。

松本　私はこんどはじめて上京し国家機関、権力がすべて自民党のために利用されていることを感じた。阿具根さんが革新陣営がのびればのびる程、保守党は結束し、これを弾圧する手を法制化してくるといわれたが、このスト規制法もその第一段階で第二、第三のスト規制法が出来労働者の基本的人権も危くなると思う。

酒井　六日衆参両院に陳情に集つた二千の労働者が三宅坂より参議院に行こうとした場合待機していた警官約三千が出動し、陳情団の前に立ちふさがり通行を阻止したので「警官隊の諸君砂川の悲劇を又繰返すのか、主権者であるわれわれの陳情をなぜ止める。道を開いてくれ」とうつたえたが「お前達は集会デモだから駄目だ帰レ帰レ」とコン棒で腹をグイグイ突きたくる。一人の学生が「一人一人はいりますから道を開けて下さい」と苦しい声で叫んでいる「今までがデモだから駄目だ帰レ帰レ」とグイグイグイコン棒で突いてくる。その様な状態が何回もつゞいていたら「リクツを云うな」とコン棒がうなる状態で、私はこのときしみじみと警官は時の政府の犬だと思つた。

司会　大分長くなりましたのでこの辺で一応終りますが、みなさんの苦労を職場でも地域でも大いに話して、国会一人でも二人でもわれわれの多くの同志を送られば、日本の平和も労働者の生活の安定もないことをうつたえて下さい。

反動土屋を倒せ
県地公労休暇戦術

県地公労（県職組、高教組、福教組）は定期昇給昇格の完全実施を要求していたが、去る五日土屋県知事が通り一ぺんの財政が苦しいということでこれを拒否したため、七日合同戦術会議を開いて、十日三割、十一日三割、十二日四割の休暇戦術を決定し、実力体制に突入する。

郵便物のヤマ
全逓は賜暇に突入

全逓大牟田支部は繁海の中央委員会で決定した。年末手当二カ月分外外九項目要求を郵政省に要求、三日より六日まで二割五分の賜暇闘争に突入し、七日までに通常郵便六千通、小包七百個がストップしている。

全員年休に突入
全電通大牟田支部

全電通は年末手当二カ月分と本社支部三名の解雇反対闘争に突入し十二月八日より十一日まで第三波の全員年休に突入する。すでに第二波闘争で電話＝福岡一大牟田間で特急四〇分、至急七時間、普通九時間、電報二十四時間おくれた。

各層の要求を結集
国民大行進
中央大会報告

国民各階層の要求を臨時国会につきあげようと、福岡、札幌を二十四日、富山を二十八日に出発した「生活と権利と国土を守る国民大行進」は雪だるま式に各地方大会の決議をひつさげ一日午後一時半から東京日比谷公園でひらかれた中央大会に結集した。この日丁度政治局の酒井善為氏（熊本県議）が上京中で、次のような当日の模様を送つて来た。

十二月一日午後一時銀座四丁目服部時計店前に三鉱連、炭労の代表とともに歓迎のために集る。この日衆参両院の社会党国会議員団は赤ダスキをかけ歓迎団の先頭に立つ。やがて銀座通りをバスに同乗した一行が花吹雪とテープの中を堂々と行進し会場の日比谷公園へ向う。この大集団の中には反動と権力に対決するマナジリを立てた本部の竹下総務部長や県評の谷口次長（山野出身）が、上京中であつた平島編集部長をはじめ、三池のうたごえの一行と感激的な握手を交していたのが印象的であつた。

会場の日比谷公園には都内の労働者、学生、市民約三万名が集り、長途の旅のつかれも見せず、たすきがけでワツショイ、ワツショイと入場する地方代表約五〇〇名（東日本一三七名、西日本二七九名、裏日本八六名）のデモを万場の拍手で迎えた。

大会は岩井総評事務局長の司会で開会、総評藤岡副議長、議長運合風見章氏、西日本班長谷口県評次長ほか、東、裏日本班団長を議長団に選出、まず社会党鈴木委員長、労農党石野書記長、共産党志賀常任幹部会員、砂川町宮岡代表、沖縄県瀬名波代表のあいさつをうけた。

大会終了後社会党国会議員団を先頭に立つて各関係官庁、国会等に向けて大デモストレーションを敢行した。

激しい切崩しつゞく
—沖縄代表、近況を語る—

十一月二十四日から始つた〝国民大行進〟には、はるばるやつてきた沖縄の代表六名が参加したが、一行の代表瀬名波栄氏（沖縄労働者連絡会代表・三六才）は最近の沖縄の状況をつぎのように語つている。

私たちは二十一日沖縄を出発しました。六名中三名が労働者です。いま沖縄の土地取上げ反対闘争にはものすごい切りくずしが行われています。切りくずしの中心になつているのは日本の自民党の淵上代議士が中心になつてつくつている「南方同胞援護会」です。それに沖縄の行政府、市町村長、資本家がつづいています。

このため沖縄の闘いはいま大きく動揺しています。このためどうしても大衆組織を下部から固めて行こうと全力をあげています。闘いの中心になつているのは農民組織、労働者の組織（中心は教職員会＝内地の教員組合）そして社会党と人民党です。こうした団体が「沖縄土地を守る協議会」をつくり、この組織が地域毎につくられています。しかし問題になるのは労働者の組織が弱いことです。力をもつているのは人民党だけです。ですからどうしても祖国である日本の労働者との固い団結とスクラムがほしいと思います。私たちは砂川をはじめ、日本内地の皆さんの闘いを十分に学んで帰りたいと思つています。

最終的には、日本の国民を苦しめ、沖縄の人たちを苦しめている日米条約の改正のために闘い国連には民族の自主権と基本的人権を守ることを訴え、手をにぎれるすべての人と手を握つていきたいと思つています。

前進
国会、空巣、強盗

十二月八日午後九時四十七分、スト規制法は強引に参議院を通過した。与論も、会議のルールも、そして最も大事な内容の審議も絶対多数の泥靴で踏みつぶされてしまつた。数い難い保守反動のやからは労働者のストやデモを革命の予行演習とひぼうする前に自らのこのファッショぶりをこそ反省してみるべきだ、そこには彼等の議員の仮面が「空巣ねらい」と「強盗」の姿で国民の鏡にうつつているはずだ。

今次国会は十一月十二日から二十五日間の会期で開かれたが病相鳩山引退の花道がこのような許し難いかけ引きによつて飾られたことを、われわれは国民と彼自身の為に悲しむものである。

十二月六日、会期切れまでにスト規制法の通過が困難だと見るやそれこそ誰の目にも「空巣」としか見えない前代未聞の方法で会期が延長された。当時の模様を朝日新聞は次のように報じている。

六日の衆議院本会議は午後四時七分、振鈴とほとんど同時に益谷議長が数名の議員とともに議長席後のドアより入場、予め議場に入つていた自民党議員が拍子でこれを迎える中を、議長は一たん議長席についたが、すぐに立ち上り「この際お諮り致します…」と宣告をはじめるや自民党議員は一斉に立つて拍手。そのころわずかばかり入つて来た社会党議員が怒号でこれを阻止しようとした。しかし議長はそのまま宣告を終ると、さつと退場した。本会議はわずか一分で終つた。

益谷議長の入場が早かつたため演壇下の速記者席には速記士が入つておらず、議長が退席するころようやく現れた。このため議長の発言は速記に記録されなかつた。

右のように全く正気の沙汰ではない、開会を予告する予鈴もならず、自民党だけでこつそり入場しめし合せた議長が突然入つて来て開会も宣告せず、閉会も宣告せず一分もかからない中に重大な一週間の延期を決定する、これが日本の国会かと思うと、戦前、戦時中の軍閥以上の国会冒とくに憤然たらざるを得ない。

しかもこればかりでなく八日の参院では強引に千葉委員長の中間報告を求め、多数決で質疑討論の打切り、時間制限の動議を可決し問答無用でスト規制法を通過させてしまつた。その上今後は衆議院の杉山副議長（社会党）を不信認とし、社会党出身の常任委員長五名を解任して、自民党だけで独占するための動議が準備されているという。絶対多数の横暴もここまでくると常識ではもう物が云えない、合法的強盗の横行とでも云おうか。

われわれはこのような国会のきちがい沙汰を単なる国会のかけひきと傍観することはできない。これほどの暴挙を犯してまでスト禁法を通過せしめねばならない政府自民党は誰にワイヤロープをつけられ、誰にムチで追い立てられたかである。頗にわれわれの前に大きく立ちはだかつて平和と民主主義を破壊しようとする力が如何に大きく、如何に露骨になりつつあるかを見失つてはならない。

妙川の基地にも、労働者の闘争にも国会の陳情にさえも彼等は「武装せる暴徒」を想定したような弾圧を準備している。国防会議が延長され、秘密保護法が拡大され自衛隊の銃口が平和を愛する国民にまつすぐ向けられようとしている現状をもつと真剣に考えよう。

ヤマグ
第11回
応募数
▲正賞者五名（各二百円）
江藤　一喜（三川内特）
松村　軍孝（港務資材）
中尾　健介（三川内機）
後藤　義一（三作木型）
高須　慶（港務事務）
江藤　丑男（宮浦運搬）
松尾　幸市（宮浦人事）
出場）したけだつたこんど豪州のメルボルンで開催される第（十六）回オリンピックには陸上水上合せて（十一）種目に出場するわが代表選手団は（百五）十余名である